

## THIS WEEK:

**6** オバマノミクス試練

20日に就任するオバマ米新大統領。新政権は大規模な景気刺激策を公約しているが、その成否を左右するのが米国の長期金利の動向だ。財政出動でデフレを阻止し、しかも低迷する住宅市場を上向かせるには、極めて狭い幅で長期金利をコントロールする必要に迫られる。

## フォーカス

**54** 日本企業に明暗

「変化」を旗印に掲げるオバマ米政権の一挙一動は、日本の企業や投資家にとっても大きな関心事。なかでも焦点は産業政策の方向だが、市場見

# 日経ヴェリタス

THE NIKKEI VERITAS

2009 1月18日~24日

第45号

©日本経済新聞社 2009

2009年1月18日発行(毎週日曜日発行)

<http://veritas.nikkei.co.jp/>

# アメリカ再生への道

## 「ハーバード」にみる挫折と挑戦

## 日米の主な卒業生

- ▽ジョージ・W・ブッシュ大統領
- ▽ヘンリー・ポールソン財務長官
- ▽マイケル・ブルームバーグ・NY市長
- ▽ジェームズ・ダイモン・JPモルガン・チェース会長
- ▽スティーブン・シュワルツマン・ブラックスストーン・グループ会長
- ▽リチャード・ワゴナー・GM会長
- ▽ジェフ・イメルト・GE会長
- ▽ルイス・ガスナー・元カーライルグループ会長
- ▽三村明夫・新日鉄会長
- ▽茂木賢三郎・キッコーマン副会長
- ▽堀紘一・ドリームインキュベータ会長
- ▽南場智子・ディー・エヌ・エー社長
- ▽新浪剛史・ローソン社長
- ▽樋口泰行・マイクロソフト社長
- ▽三木谷浩史・楽天社長

# 米中枢に卒業生のネットワーク

米誌ビジネスウィークが昨年実施した「米国のビジネススクールランキング」によると、ハーバード・ビジネス・スクール（HBS）はシカゴ大に次いで2位だった。前回調査の4位から順位を上げた。授業料は10万ドル強と全米で最も高いが、卒業後の平均年収は約12万ドル。求職率も100%という。

経済面の負担を別にしても、入学は容易ではない。英語力は当然として、「自分がやり遂げたこと」「失敗から何を学んだか」などのテーマで英文エッセーを書く。「公私にわたるリーダ

ーシップを重視しつつ、卒業後に長く活躍できる若い学生を選ぶ傾向が強まっている」と留学支援のアゴス・ジャパン（東京・渋谷）の本多正樹社長は分析する。競争率は約8倍、20歳代半ば過ぎの学生が多いという。

米産業、金融、政官界に卒業生を輩出しているのはもちろん、米軍との縁も深い。ベトナム戦争当時の国防長官マクナマラ氏らも卒業生だ。経営と軍事戦略は親和性が高いのだろうか。

成績の半分は授業での発言によって決まる。ディベート（議論）力は折り

紙つきだ。人材紹介のアクシアム（東京・港）の渡辺光章社長は、HBS卒業生の気質について「リーダーの中のリーダーにならなくては、と思う傾向が強い」と話す。

1990年代は1学年あたり20人ほどが日本人だったが、最近は10人前後に減った。日本の魅力が低下し、入りづらくなったともいわれる。中国やインド人の存在感が高まっている。

編集委員・梶原誠、西山太郎が担当した。  
グラフィックス・鎌田健一郎。